



時事新報

明治廿八年九月十八日 水曜日
 第...号
 (西曆一千八百九十五年)
 二百六十一日

時事新報は全國中紙面の最も廣き新聞紙なり 時事新報には毎號詳細なる商況物價の報告あり

時事新報定價
 時事新報は毎號八面乃至十二面にして詳細なる商況物價の報告あり其代價は左の如し

時事新報定價 (府外運送には此他後に掲ぐる運送料を要す)
 一 號 貳錢五厘 ○一箇月 前金五拾錢 ○三箇月 前金壹圓四拾五錢 ○六箇月 前金貳圓八拾五錢 ○一箇年 前金五圓六拾錢 ○月曜日休刊 (此他大祭祝日等始末一切休刊せず)
 前金 一旦受取りたる前金は凡て通貨を以て返戻する事なく新聞紙代の前金は新聞紙を以て又廣告料の前金は廣告を以て勘定する事と御承知被下度候

時事新報運送料
 一 日本國內並に朝鮮京城、仁川、釜山、元山等 一箇月 金拾三錢
 二 南亞米利加、中央亞米利加、米國若くは加拿大を經て郵送する歐洲各國 一箇月 金六拾錢
 三 北米合衆國、英領加拿大、布哇諸島 一箇月 金三拾錢
 四 香港を經て郵送する亞細亞諸島、太平洋諸島、露領滿洲、清國諸港 一箇月 金六拾五錢
 五 露領滿洲、清國諸港 一箇月 金三拾五錢
 時事新報廣告料 (前金)
 一行五號活字廿四行 一日限 一月以上 七以上
 一行 一付 十三錢 十一錢 十錢 五錢

廣告料定價 時事新報の廣告料は都て定價の通り申受くる者なれども取次人の内には往々定價以下にて引受くる者ある由今後斯る事實を發見する時は直ちに其取次人に對し本社廣告の取次を謝絶する事もあるべき旨に付豫め廣告依頼者諸君に公告す

本社へ寄稿の付
 東京府下を始め各府縣に通信社なるものありて是より各新聞社に報道を發送し各新聞社は之を受けて紙面を撰するより各社同一の記事を掲ぐるものと察からず獨り時事新報社社員並に通信員の多きを以て斯類の社に通信を依頼せずと雖も世間往々此事を知らずして通信社に「報道すれば本社にも其報道は達する事と信する方多きが如し」爲めに行違ひを生じたる場合も亦か本社に對し「記事論説を寄稿せん」とする方は直ちに本社に對し發送せらるるものと請ふ

朝鮮の商賣に注意す

朝鮮獨立の一舉は滿世界に日本の倭名を成したり甚だ喜ぶ可しと雖も本朝對朝鮮の目的は政治上に其獨立を全ふして西歐の藩屏を固ふし商賣上には其未開を開て貿易の利益を謀るに外ならず而して實際如何を見れば戰勝の餘勢、森林入道を震動して日本の威力を感ぜしめたりと雖も貿易の一點に至りては戰爭の前後を比較して未だ著しき相違を認めざるが如し昨年中我國の大軍が彼の地の所在に充滿したる折には諸般の需用非常によく一時商賣繁昌の勢を呈し商人の利益を得たるものも少なからざりし由なれども其商賣の實は

單に日本人が日本軍隊の需用品を目的としたるものにして戰爭の局面次第に北清の方向に轉じ在韓軍隊の數次第に減少するに隨て商賣の勢も次第に下火と爲り今日に至りては京城、仁川等に於ける貿易の有様は依然戰爭前の舊に復し毫も進歩の實を見ざる其一方に戰爭中一時引揚げたる支那の商人等は平和の終局と同時に歸來して其數既に千何百人の多きに及び例の如く機敏に立廻りて殆んど舊勢を回復するの有様なりと云ふ然るに日本人の消息は如何と云ふに戰後在留の人数を増したれども其多數は無餘餘、商賣上の考などは皆無なるのみか漫に戰勝の餘光を肩に若て彼國上下の間に出没し何か爲めにする所あらんとする彼落戸同様の輩なれば彼國人等は之を厭ふも甚だしく日本人とあれば何れも是種の輩と同一視せられて爲めに信用を損するものと一方ならずと云ふ左れば今日の處にては日本は單に義侠の空名を博し空威張して却て朝鮮人に嫌はるゝのみ實際には何の益する所なしと云ふも可なり然るに入りたる次第なりと云ふ可し既に進んで他の獨立を成さしめたる上は商賣貿易の事に就ても大に計畫を運らして最初の目的を達せざる可らず我國人の宜しく自省す可き所なり

支那の事情を知るよと肝要なり

今後我商賣殖産の事業に就て最も注目す可きは西歐の支那帝國なり支那は一衣帶水に隔つる近隣國なるに拘はらず從來日本人にして其事情に通ずるものは甚だ少しなるが如し遠き西洋諸國の事情は之を詳にするもの多し其分明明なるに反し支那の國情不分明なりとは最も奇なれども自から理由あり即ち彼は鎖國同様の國にして外國人の内地に入込むは容易ならざる其上に一種特別の老帝國にして自國の人々も國內一般の事情を知るに苦しむ程の次第にして今日までは殆んど世界に別天地の姿を成したれども日清戰爭の結果として恰も全國を開放せしめ既に已に世界商工業の競争地と成りたる上は外國人等は先を争ふて事に着手するものとならん東道の主人たる日本人たるものは如何ぞ他に一着を譲るを得ん各種の計畫最も急にせざる可らずと雖も國人一般に事情不案内とあれば計畫の實際は兎も角もとして安心して資本を投するものにはある可らず斯くては事業の盛大を期するも東道なき次第なれば何れは兎もあれ彼の内地の事情を知るは目下の必要なる可し聞く所に據れば政府にては今度上海在勤の我領事に過般の平和條約に由り我國の爲めに開きたる新開市場の巡回を命じ居留地等の取極を爲さしむるよし本領事の職分は商工業の取調報告に重きを置くものにして決して容易の業に非ず其道に經驗老練の人物にして始めて目的を達す可し殊に今度の巡回は彼の内地貿易の開始第一着手なれば政府に於ても必ず其人選に注意して果して適任者を得たるもたらん

官報

告示
 陸軍省告示第十六號
 明治二十八年九月十七日
 陸軍大臣 侯爵大山巖

告示
 陸軍省告示第十七號
 明治二十八年九月十七日
 陸軍大臣 侯爵大山巖

告示
 陸軍省告示第十八號
 明治二十八年九月十七日
 陸軍大臣 侯爵大山巖

雜報

官業廢止の上諭 支那の工業振作を題し清國にては從來の官業を民業に移し尙ほ民間に於て起業の志あるものには資本を貸與し務めて工業振作の方針を執る事となりたる趣外字新聞の報する儘去る十五日の紙上に記載せられたれども尙ほ近着の上海申報に據れば最近二十餘年來政府の全力を注ぎて各省に設立せる造船所、兵器製造所、鑛工所等は是迄投入せる費額の割合に成算不十分なるを以て廢止の方針を改め之を民業と爲して大に振作するものと決し遂に八月十一日を以て發せられたるその上諭の要旨は左の如しと

衛生事務講
 一時より私立衛生會者百余名式後別會したるよし

市村座の劇
 三郎は優の體に有る人とは一見して知れぬ所を暫しと止めぬ不承知とあらば政權懸念に長人の命の命懸かりたり此上は後進實業界出でしかと後悔し

委員を簡び各地首座に聘し其果して該商民等の局廢一切を棄を擲りて局廢をに據り商は其事又商民の力足らるるを得しむ洗滌なからしむ詳細に具奏すべ

歐洲語の使
 れば現今歐洲の諸は英語なりとすスの殆どは英語にして當時は佛語多し今日に於ては多きに達し佛語の千萬人、西班牙語は太利語は三千萬人英語を使用する者つゝあり今後尙は世紀の末に於ては語を使用する者は北米合衆國に於ては萬人、歐洲及大洋洲に於ては二百五十萬人萬人あり尙ほ同種刺西爾を除くの外のなるを以て英語此兩國語は從來も尙ほ極民語とし

生絲の産出
 七年中の全國(和蘭)百五十二ヶ所自宅其產出高は左の如し

衛生事務講
 一時より私立衛生會者百余名式後別會したるよし

市村座の劇
 三郎は優の體に有る人とは一見して知れぬ所を暫しと止めぬ不承知とあらば政權懸念に長人の命の命懸かりたり此上は後進實業界出でしかと後悔し